

2021年3月期  
第3四半期 決算説明資料  
(2020年4月～2020年12月)

アサヒホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 經營成績



## 2020年度第3四半期決算のポイント

### 経営成績

2020年度第3四半期 決算実績	営業利益 172億円（前年同期比+50億円）
2020年度通期 業績予想の上方修正	営業利益 240億円（前年同期比+60億円） 今期2回目の上方修正：前回予想の210億円から30億円プラス 4期連続 過去最高益更新

### 経営施策・トピックス

株主還元 安定的な配当を継続 配当性向50%以上目指す	期末配当 10円増配（年間160円 170円） 前年度から年間40円の増配
株式分割の実施	分割比率1:2の株式分割を実施 基準日3/31 効力発生日4/1
新型コロナによる影響	貴金属、環境保全とも期初の想定と比較して影響は軽微 事業分野別の影響はスライド3に記載
インターセントラルの 株式譲渡	(株)インターセントラルの全株式を(株)オーテックに譲渡 施工体制の整備や販売強化などの相乗効果 グループ全体における経営資源の最適配分の推進
会計方針の変更 2020年度決算より	北米事業のメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更 2019年度まで「金融費用」 2020年度より「売上原価」 経年比較の対象となる前年同期の数値も会計方針変更を反映
焼却炉の更新	アサヒプリテック北九州事業所・ひびき工場の焼却炉更新 廃熱利用によるサーマルサイクルを通じて地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献 廃棄物焼却効率（＝廃棄物の焼却に必要な燃料使用量）が向上

2

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度第3四半期は前年同期比で大幅な増収増益となりました。
- 2020年度第4四半期も業績は引き続き堅調に推移する見込みのため、2020年度通期業績予想を上方修正します。
- 期末配当を10円増配し90円とします。これにより、2020年度の年間配当は2019年度実績から40円増配の年間170円となる予定です。
- 株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図るため、分割比率1:2の株式分割を行います。
- 新型コロナによる影響は、貴金属事業セグメント、環境保全事業セグメントとも、期初の想定と比較すると影響は軽微でした。スライド3で詳細に解説しています。
- 当社連結子会社であるインターセントラルの全株式を、株式会社オーテックに譲渡することを決定しました。一貫した施工体制の整備や電気暖房機器の販売強化などの相乗効果を見込んでいます。スライド17で詳細に解説しています。
- 今年度から北米事業のメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更しました。2019年度までは金融費用としていましたが、2020年度より売上原価としています。これに伴い、経年比較の対象となる2019年度の業績についても会計方針変更を遡及反映した数値に変更しています。
- アサヒプリテック北九州事業所およびひびき工場において焼却炉を更新しました。スライド18-19に新施設の写真を掲載しています。

# AW 新型コロナによる影響

## 貴金属事業

国内・アジアの貴金属リサイクル分野は、デンタルや宝飾の一部で影響を受けたが、パソコン・ゲーム機等の製造関連からの回収量が引き続き好調で、自動車関連の回収量も回復。

分野	当社事業への影響等
デンタル	院内感染対策強化による診療制限から患者数が減少し、回収量も減少
宝飾	販売の縮小で製造系の回収量が減少したが、流通・買取業者のリユース低調に伴い回収量が増加
触媒	国内は自動車の買換えの回復に伴い回収量が増加し、アジア地域の自動車触媒からの回収量も増加
エレクトロニクス分野	車載関連が回復し、パソコンやゲーム機、スマホ等の製造関連も引き続き好調で回収量が増加
北米精錬	製品加工・販売や金融取引が増加

## 環境保全事業

教育機関や自動車業界などからの回収量は回復傾向にあり、医療業界や化学産業からの回収量は好調であったが、建設業界や外食業界などの低迷が響き全体の回収量は減少。

業界	当社事業への影響等
教育・研究機関	大学や公的機関の活動が回復し、廃試薬の回収量を確保
建設	住宅関連生産や新築需要の低調が続いており、汚泥、廃油、木くずなどの回収量が減少
自動車	自動車業界の回復により、車載機向け半導体工場からの廃液の回収量を確保
食品	食品メーカーの影響は限定的であるが、外食業界の不振により残渣物やガラスびんの回収量が減少
医療	医療系廃棄物の回収量や焼却処理が好調
化学	消毒薬関連等の回収量が好調

3

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 新型コロナウイルスによる当社事業への影響は分野や業界ごとにばらつきがありました。
- デンタル分野は院内感染対策強化による診療制限などから患者数が減少したため、前年同期比で回収量は減少しました。
- 宝飾分野は販売の縮小により製造業者からの回収量は減少しましたが、リユース市場の低調によりリサイクル市場が相対的に膨らんだため、前年同期比で回収量が増加しました。
- 触媒分野は国内の自動車の買い替え需要が回復したことから回収量が増加し、また、アジア地域向けの自動車触媒からの回収も好調であったため、前年同期比で回収量は増加しました。
- 電子分野は車載関連需要が回復し、また巣ごもり需要によってパソコン・ゲーム機・スマホに使用される電子デバイスの生産が活況で、前年同期比で回収量は増加しました。
- 北米精錬分野は、コインや小型バーといった製品の加工・販売が好調で、さらに前渡しやトレーディング等の金融取引も拡大しました。
- 環境保全事業は、教育機関や自動車業界などからの回収量は回復傾向にあり、コロナ影響により医療業界や化学産業からの回収量は好調でしたが、建設業界や外食業界などの低迷が響いたことから全体としての回収量は減少しました。

# AW 連結業績

**第3四半期実績** 貴金属事業が好調 連結業績を牽引 大幅な増収増益

**通期予想** 貴金属事業を中心に業績は堅調に推移する見込み

今期2回目の上方修正（前回予想から営業利益+30億円）

4期連続での過去最高益更新となる見込み

連結納税制度導入とグループ再編による税効果（当期利益+82億円）

（単位：億円）

	2019 3Q	2020 3Q		2020通期 (予想)				
	実績 <sup>1</sup>	実績	増減	今回 予想	前年度 実績	増減	前回 予想	増減
売上収益	991	1,200	209	1,650	1,356	294	1,650	0
営業利益	122	172	50	240	180	60	210	30
営業利益率	12.4%	14.4%	2.0%	14.5%	13.3%	1.3%	12.7%	1.8%
税引前利益	121	173	53	249	177	72	208	41
当期利益 <sup>2</sup>	64	120	56	250	98	152	140	110
設備投資	23	36	13					
減価償却費	22	19	3					

1 2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。これに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

2 親会社の所有者に帰属する当期利益。

4

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年度第3四半期は、貴金属事業が好調で連結業績を牽引し、前年同期比で大幅な増収増益となりました。
- 営業利益は前年同期比で50億円増加の172億円となりました。
- 2020年度通期の業績予想を営業利益240億円に上方修正しました。前回予想から30億円のプラスとなります。4期連続での過去最高益更新となる見込みです。
- 連結納税制度の導入とグループの再編により82億円の繰延税金資産を第4四半期で計上する予定です。これにより当期利益は前年同期比152億円増加の250億円となる見込みです。

## AW 連結業績（事業セグメント別）

### 第3四半期実績

**貴金属事業**：大幅増収増益

**環境保全事業**：産廃廃棄物の排出量が減少したことなどから売上収益は前年同期比減少だが、営業利益は処理単価の引き上げなどにより前年同期並みを維持

### 通期予想

**貴金属事業**：業績は引き続き堅調に推移し増収増益の見込み

**環境保全事業**：徐々に回復に向うが減収減益となる見込み

（単位：億円）

		2019	2020		2020通期				
		3Q	3Q		（予想）				
		実績	実績	増減	今回 予想	前年度 実績	増減	前回 予想	増減
貴金属	売上収益	828	1,056	228	1,450	1,138	312	1,433	17
	営業利益	108	162	55	229	159	70	199	30
	利益率	13.0%	15.4%	2.4%	15.8%	14.0%	1.8%	13.9%	1.9%
環境 保全	売上収益	153	145	8	200	207	7	217	17
	営業利益	30	28	2	37	44	7	40	3
	利益率	19.8%	19.6%	0.2%	18.5%	21.0%	2.5%	18.4%	0.1%
連結	売上収益	991	1,200	209	1,650	1,356	294	1,650	0
	営業利益	122	172	50	240	180	60	210	30
	利益率	12.4%	14.4%	2.0%	14.5%	13.3%	1.3%	12.7%	1.8%

2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。それに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

5

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

### 【第3四半期実績】

- 事業セグメント別では、貴金属事業セグメントは大幅な増収増益となりましたが、環境保全事業セグメントは売上収益が前年同期比で減少、営業利益は横ばいとなりました。
- 貴金属事業セグメントは、国内・アジアの貴金属リサイクル事業分野、北米の精錬事業分野とも好調で、大幅な増収増益となりました。
- 環境保全事業セグメントは、一部の工業生産活動に持ち直しの動きはあるものの、産業廃棄物の排出量が総じて減少したことから、売上収益は前年同期比で減少しましたが、自社施設の稼働率の維持や処理単価の引き上げなどにより、営業利益はほぼ前年同期並みの水準を維持しました。

### 【通期業績予想】

- 貴金属事業セグメントは、第4四半期も業績は堅調に推移する見込みであり、通期の業績予想は前年度との比較で大幅に増収増益となる見込みです。
- 環境保全事業セグメントは、工業生産活動の持ち直しに伴い、産業廃棄物の排出量は徐々に増加する見込みですが、前年同期との比較では減収減益となる見込みです。

## AW 貴金属事業セグメント

### ■ 貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）：

**第3四半期実績** 貴金属価格上昇と安定的な貴金属回収の実現により増収増益  
**通期予想** 引き続き堅調に推移する見込み

### ■ 北米精錬事業分野：

**第3四半期実績** 製品加工・販売や金融取引が増加したことなどにより増収増益  
**通期予想** 引き続き堅調に推移する見込み

（単位：億円）

貴金属	2019 3Q	2020 3Q		2020通期 (予想)				
	実績	実績	増減	今回 予想	前年度 実績	増減	前回 予想	増減
売上収益	828	1,056	228	1,450	1,138	312	1,433	17
営業利益	108	162	55	229	159	70	199	30
利益率	13.0%	15.4%	2.4%	15.8%	14.0%	1.8%	13.9%	1.9%

2020年度決算より、北米事業のメタル調達のための借入金利息の計上区分を金融費用から売上原価に変更した。それに伴い比較係数となる2019年度の決算数値は会計方針変更後の数値に変更している。

6

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

### 【貴金属リサイクル事業分野（国内・アジア）】

- 国内およびアジアの貴金属リサイクル事業分野は、主力の金やパラジウムの価格の上昇に加え、安定的な貴金属回収を実現しました。その結果、2020年度第3四半期は前年同期と比較して大幅な増収増益となりました。
- 第4四半期も業績は引き続き堅調に推移する見込みです。

### 【北米精錬事業分野】

- 北米精錬事業分野の原料入荷量は、金については前年同期と比較して横ばいとなりましたが、銀は減少しました。一方、コインや小型バーなどの製品加工・販売、前渡しやトレーディングといった金融取引は前年同期と比較して大幅に増加しました。その結果、2020年度第3四半期は前年同期と比較して大幅な増収増益となりました。
- 第4四半期も業績は引き続き堅調に推移する見込みです。



## 参考：貴金属回収量及び貴金属価格の推移

### 【貴金属リサイクル 回収量】

[単位：kg]

	2019年度	2020年度	
	3Q実績	3Q実績	増減
金	12,709	13,714	1,005
パラジウム	5,262	5,015	247
銀	53,333	52,438	895
プラチナ	3,021	3,364	343

### 【貴金属価格（1gあたり）】

[単位：円]

	2019年度	2020年度	
	3Q 期中平均価格	3Q 期中平均価格	差異
金	4,989	6,274	1,285
パラジウム	5,548	7,426	1,878
銀	58.7	75.3	16.6
プラチナ	3,154	3,073	81

7

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 貴金属リサイクル事業分野における回収量と貴金属価格の推移です。
- 2020年度第3四半期の回収量は、パラジウムと銀は減少しましたが、金とプラチナは増加しました。
- 2020年度第3四半期の貴金属価格は、プラチナの価格は僅かに下がりましたが、金、パラジウム、銀の価格は大幅に上昇しました。



## AW 環境保全事業セグメント

**第3四半期実績** 一部の工業生産活動に持ち直しの動きがあるが、産業廃棄物の排出量は総じて減少し、売上収益は前年同期比で減少  
 自社施設の稼働率の維持・処理単価の引き上げなどにより、営業利益は前年同期並みの水準を維持

**通期予想** 工業生産活動の再開により、産業廃棄物の排出量は徐々に増加する見込みだが、前年同期比では減収減益となる見込み

(単位：億円)

環境保全	2019 3Q	2020 3Q		2020通期 (予想)				
	実績	実績	増減	今回 予想	前年度 実績	増減	前回 予想	増減
売上収益	153	145	8	200	207	7	217	17
営業利益	30	28	2	37	44	7	40	3
利益率	19.8%	19.6%	0.2%	18.5%	21.0%	2.5%	18.4%	0.1%

8

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 環境保全事業セグメントの2020年度第3四半期の実績は、一部の工業生産活動に持ち直しの動きはあるものの、産業廃棄物の排出量は総じて減少しました。このような市場の状況により、売上収益は前年同期と比較して減少しましたが、自社施設の稼働率の維持や処理単価の引き上げなどにより、営業利益は前年同期並みの水準を維持しました。
- 第4四半期は、工業生産活動の持ち直しに伴い、産業廃棄物の排出量は徐々に増加する見込みですが、前年同期との比較では減収減益となる見込みです。

# AW 財政状態

(単位：億円)

	2020年 3月末	2020年 12月末	増減	備考
流動資産	1,876	2,215	339	
営業債権	1,198	1,441	244	営業債権残高の約9割および増減額の大部分は <b>北米事業のメタル調達のための借入金見合いの債権</b> 。(詳細は「社債及び借入金」の備考を御参照)
棚卸資産	377	552	174	棚卸資産残高および増減額のほぼ全てが貴金属リサイクル事業における <b>貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品</b> 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的</b> 。
その他	301	223	78	
非流動資産	424	449	26	
資産計	2,300	2,665	365	
負債	1,608	1,887	279	
社債及び借入金	1,268	1,521	253	借入金残高の約8割は <b>北米事業におけるメタル調達のための借入金</b> 。原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
その他	340	366	26	
資本	692	778	86	
資本・負債計	2,300	2,665	365	

9

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 2020年12月末の総資産は、2020年3月末と比較して365億円増加の2,665億円となりました。資産では営業債権と棚卸資産が増加しました。
- 社債および借入金残高の約8割は北米精錬事業におけるメタル調達のための借入金です。また、営業債権残高の約9割および増減額の大部分は借入金見合いの債権です。
- 北米事業では、金融取引を収益の柱のひとつとしており、積極的に推進しています。金融取引の代表的な例は、スライド16にある「前渡し取引」です。鉱山顧客から受け取った精錬原料を製品化するまでに通常一週間程度を要しますが、顧客によっては、製品化前に製品の返却を希望することがあります。その場合、当社は銀行借入を行った資金により貴金属を購入して前渡し返却します。その対価として、前渡し日数に応じた金利を請求します。
- 前渡しに際しては、入荷原料の貴金属含有量を分析し、その範囲内で前渡しを行っています。したがって、実質的な貸倒リスクはありません。また、借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスクも回避しています。
- 当社グループの棚卸資産残高および増減のほぼ全ては貴金属リサイクル事業の原料、仕掛品、製品です。これらも回収と同時に貴金属含有量の分析を行っています。また、貴金属価格の変動については、先物市場でヘッジしており、価格変動リスクはありません。また、棚卸資産が貴金属あるいは貴金属含有物ですので、品質が劣化するリスクはなく、製品化すれば市場で現金化することが可能です。
- 借入金や見合いの債権や棚卸資産により、バランスシートの資産・負債の残高は大きく見えますが、実際にはリスクの低い資産・負債がその多くを占めています。

# AW キャッシュフロー

(単位：億円)

	2020年度 3Q	備考
営業CF	108	
棚卸資産の増減	174	増減額の内、173億円が貴金属リサイクル事業における <b>貴金属含有物の回収原料/仕掛品/製品の増加</b> 。回収時に貴金属含有量を分析してから仕入れていること、また仕入れと同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的</b> 。
営業債権他の増減	185	増減額の内、227億円は北米事業のメタル調達のための <b>借入金見合いの債権の増加</b> 。借入金は原則として原料入荷後に貴金属含有量を分析し、その範囲で借入を行っていること、また借入と同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
その他	251	
投資CF	45	
財務CF	5	
長短借入金の増減	67	
配当金	59	
その他	3	
現預金の増減額	152	

10

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 営業キャッシュフローは108億円のマイナスとなりました。棚卸資産の増加と営業債権の増加が主な要因です。
- 棚卸資産の残高およびその増減の大部分は、貴金属リサイクル事業における原料、仕掛品、製品ですので、品質劣化リスクがなく、ヘッジによって価格変動リスクを回避しています。原料、仕掛品であっても製品化すれば、市場で現金化することができます。その意味では、経済的には現金に近い性質のものと考えられます。
- 営業債権は、主に北米事業でのメタル調達のための借入金見合いの債権であり、貸倒リスク、価格変動リスクがない、極めてローリスクな資産です。
- これらの安全資産の増加を除いた営業キャッシュフローは290億円を超えるプラスとなります。

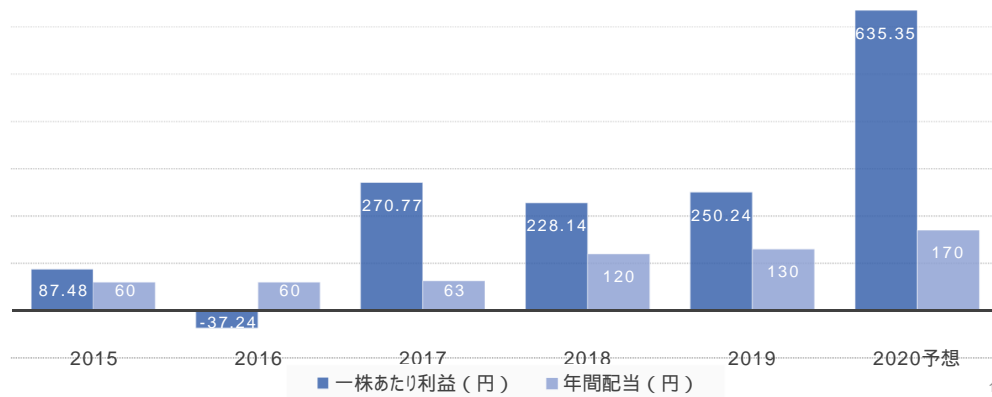
## AW 配当

基本方針：配当性向50%以上をめどに安定的な配当を実施

2020年度：期末配当を10円増配（年間160円 170円）

前年度の年間130円から40円の増配

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (予想)
一株あたり利益（円）	87.48	37.24	270.77	228.14	250.24	635.35
年間配当（円）	60	60	63	120	130	170
配当性向（%）	68.6	-	23.3	52.6	52.0	26.8



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 業績が堅調に推移していることを踏まえ、2020年度の期末配当を10円増配して、一株当たり90円とする予定です。これにより年間配当は170円となります。
- 今後も安定した株主配当を継続して実現したいと考えています。

## 株式分割

### 分割比率 1:2の株式分割を実施

#### 目的

投資単位あたりの金額を引き下げることにより**株式の流動性の向上・投資家層の拡大**を図る。

#### 分割方法

2021年3月31日（水）を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載・記録された株主の所有する普通株式を**1株につき2株**の割合をもって分割する。

#### 分割日程

株式分割公告	3月16日
基準日	3月31日
効力発生日	4月1日

今回の株式分割に際して資本金の額に変更はない

12

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

- 株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図るため、分割比率1:2の株式分割を実施します。
- 基準日は3月31日で効力発生日は4月1日です。

## 參考資料



## 会計方針の変更（2020年度決算より）

- 2020年度決算より、北米金融取引にかかるメタル調達のための借入金利息の会計方針を変更。2019年度までは「金融費用」として計上していたが、2020年度より「売上原価」に計上する。（比較係数となる2019年度の決算数値も会計方針変更後の数値に変更）
- 会計方針の変更により、北米金融取引の収益に対する費用が適切に対応し、営業利益がより実態を反映した数値となる。（上期の影響額は以下の通り）

（単位：億円）

	2019年度第3四半期			2020年度第3四半期		
	変更前	会計方針 変更 (金融費用 売上原価)	変更後	変更前	会計方針 変更 (金融費用 売上原価)	変更後
売上収益	991		991	1,200		1,200
売上原価	793	16	809	968	7	975
売上総利益	199		182	232		226
販管費他	60		60	53		53
営業利益	139		122	179		172
金融収益	0		0	2		2
金融費用	18	+16	1	7	+7	1
税引前利益	121		121	173		173
法人所得税	45		45	54		54
当期利益	64		64	120		120

14

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

## 貴金属事業の主な収益要素

### 貴金属リサイクル事業：

- 精錬手数料は固定的な安定収益。そこに収率差異による収益がプラス。

### 北米精錬事業：

- 精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。</li> <li>■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。</li> </ul>
	収率差異（実収率と契約収率との差異 = フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 精錬原料（ドーレ）の入荷量が増えれば手数料は増加する。</li> <li>■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。</li> </ul>
	収率差異（実収率と契約収率との差異 = フリーメタル）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。</li> <li>■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。</li> <li>■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。</li> <li>■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。</li> </ul>

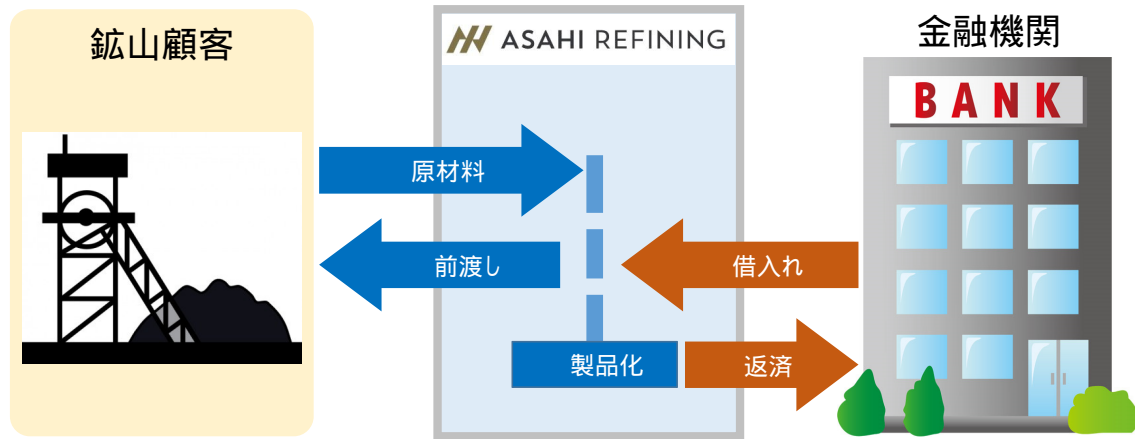
15

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



## AW 前渡し取引（北米金融サービスの代表例）

- 北米において、原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する「前渡し」金融サービスを提供。
- 契約納期前のメタル返却に応じることで、顧客から「前渡し日数分の金利」を得るが、原則的に原材料を受領してから前渡しを行うため、リスクは抑止。



北米の金融サービスは精錬事業を土台にした安全な収益実現モデル

16

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

## インターセントラルの株式譲渡

- 当社連結子会社である株式会社インターセントラルの全株式を、株式会社オーテックに譲渡することを決定。
- インターセントラル社がオーテック社グループに加わるにより、一貫した施工体制の整備や電気暖房機器の販売強化などの相乗効果を見込む。
- グループ全体における経営資源の最適配分を進める。

### 主な日程

2021年1月29日 : 株式譲渡契約締結

2021年3月31日 : 株式譲渡日(予定)

インターセントラルは、当社連結子会社から外れる見込み。

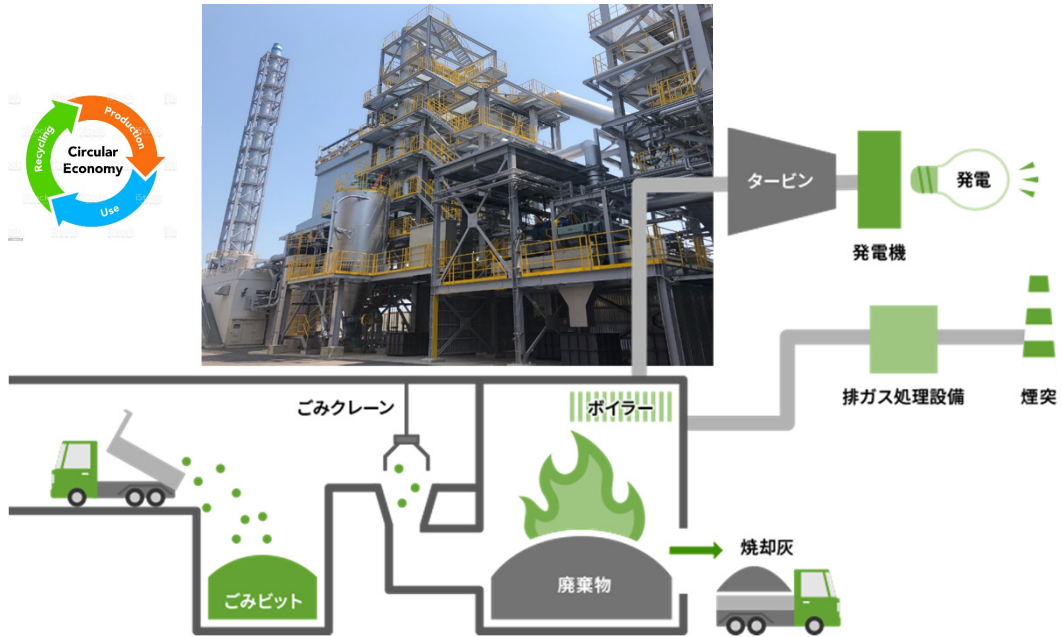
### 株式会社オーテック 株式会社 オーテック

- 空調自動制御システムの設計、施工、メンテナンスを行う「環境システム事業」と管工機材と住宅設備機器を販売する「管工機材事業」の2つの事業を通じて社会に貢献
- 2000年にはJASDAQ市場に株式を上場、建物の利便性と環境改善、エネルギー効率の向上を追求するべく成長を続けている



## 焼却炉更新・発電施設新設 アサヒプリテック北九州工場

- アサヒプリテック北九州工場の焼却炉（処理能力90 t / 日）を更新。
- 廃棄物焼却時に発生する廃熱を利用した発電設備を導入し、サーマルリサイクルを通じて地球環境の保全とサーキュラーエコノミーの形成に貢献。



18

Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

## 焼却炉更新 アサヒプリテックひびき工場

- アサヒプリテックがひびき工場（北九州市若松区）の焼却炉（処理能力45 t / 日）を更新
- 既存の廃棄物焼却炉と比較して、廃棄物焼却効率（廃棄物の焼却に必要な燃料使用量）が向上



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.



# 金属価格推移 [ 金・銀 ]

(単位：円/g)

金



銀

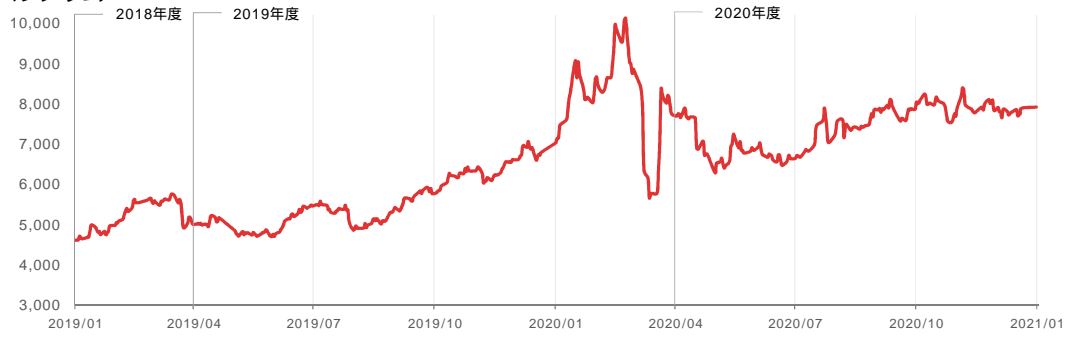


Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

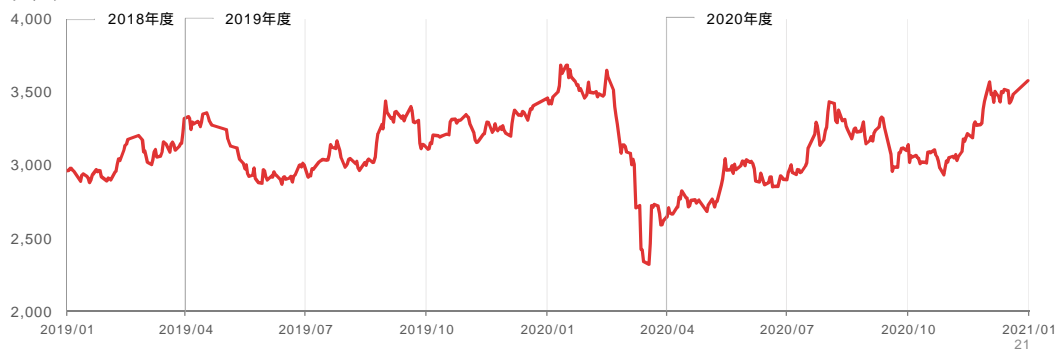
# AW 金属価格推移 [パラジウム・プラチナ]

(単位：円/g)

## パラジウム



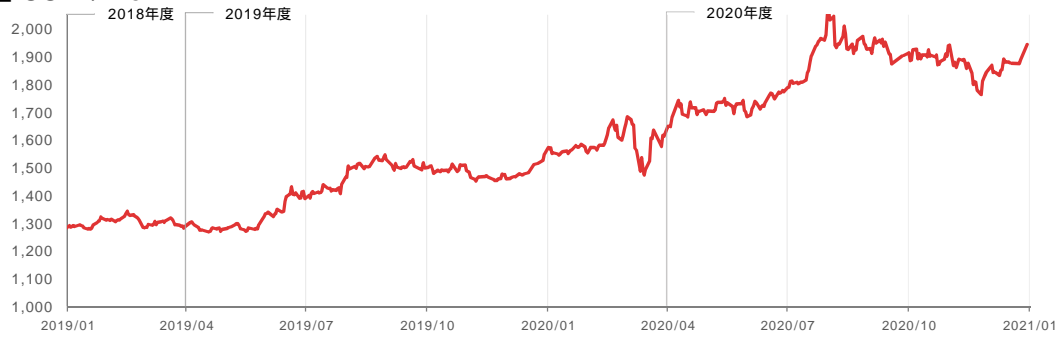
## プラチナ



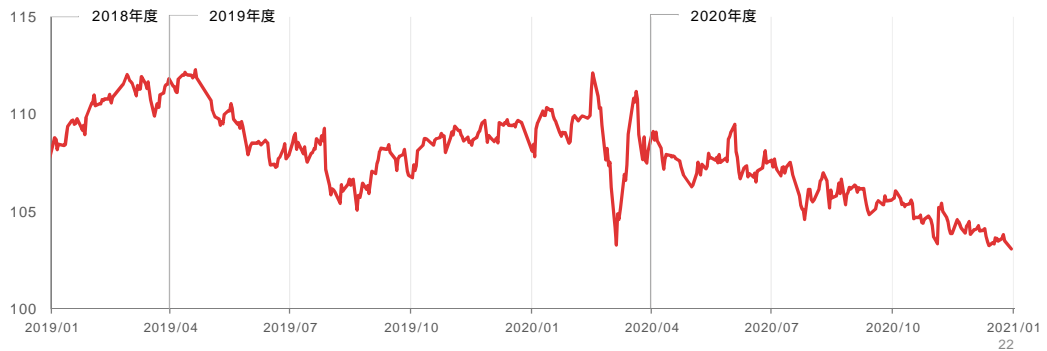
Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.

# AW 価格推移 [ 金USD / Toz , ドル円 ]

## 金 USD / Toz



## ドル / 円



Copyright © Asahi Holdings, Inc. All rights reserved.